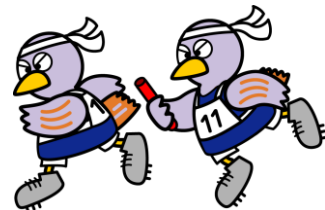


## 小さな積み重ねで未来を拓く

校長 二瓶 亮

8月29日(木)より2学期がスタートし、吹中生の元気な姿が学校へ戻ってきました。今年の夏休みも猛暑日続きの暑さの中で過ぎていきました。「あつい」といえばパリオリンピックもこの夏休み中にあり、日本代表選手、チームが熱い戦いを見せてくれました。私は個人的に陸上男子4×100mRに注目していました。見事に決勝まで進んだものの結果は5位でした。本気でメダルを狙っていた選手たちは残念そうでしたが、個々の力では他国に劣る日本でもコーナリングやバトンパスで世界と勝負できることを今回も証明してくれました。彼らを観て「世界と勝負したい」と思った若い選手がこれからどんどん出てくることを期待して次のオリンピックも楽しみにしたいと思います。



さて、2学期は学習に加えて、様々な活動、取組があり、自分を成長させるチャンスもたくさん用意されています。早速9月6日(金)には「吹香祭」があります。内容は今年も文化部の発表や作品披露と各学年がここまでの学習成果発表(総合的な学習の時間、保健体育〔ダンス〕)が中心となります。加えて7月25日(木)に開催された「子ども未来会議」で本校を代表して鴻巣市への提言をしてくれた1年生3名による報告会と本校から3年生3名が参加した鴻巣市中学生海外(オーストラリア)派遣事業の報告会もあります。準備の段階では生徒それぞれに役割があり、披露するための作品作りや発表準備があります。生徒会執行部を中心に吹中生全員で作る「吹香祭」にしてくれること、今から楽しみです。

この吹香祭を皮切りに、2学期には生徒会役員選挙、運動部の新人戦、合唱祭、各学年行事(スキー教室の準備、上級学校訪問、高校の授業体験等)、そして毎日の授業とその成果を確かめる定期テスト……やるべきことがたくさんあります。吹中生にはぜひこれらの機会を通して自分を成長させ、自分の未来(人生)を切り拓く気概を持って学校生活を送って欲しいと思います。

日本のプロ野球でヤクルトスワローズや阪神タイガース、東北楽天イーグルスなどの監督を歴任し、チームを日本一に導いた名監督であり、野球解説者としても親しまれた野村克也氏(1935年~2020年)は「人生」という二文字から次の4つの言葉を連想すると語っています(「野村ノート」小学館より)。

「人として生まれる」(運命)

「人として生きる」(責任と使命)

「人を生かす」(仲間、絆、仕事)

「人を生む」(継続、育成、繁栄)

野村氏はこの4つの意味をチームの選手に説き、プロの世界で生き抜くための覚悟と成功への道標として示したそうです。

何かに取り組むとき、いいことばかりではなく、失敗や苦しい思いになることもあります。それを乗り越えたとき、人は成長します。人生をたくましく、自分らしく生き抜くためには、これらの機会(運命)を生かし、自分に与えられた役割(使命)を自ら探し出して行動することが必要です。身近なところに目を向けてみよう。人には学校でも家の中でも役割があります。まずはそれを、責任をもって果たしましょう。その中には一人ではできないこともあります。そんな時は、助けてくれる仲間を得て、乗り切ろう。この小さなことの積み重ね(継続)がやがて大きな力となって自分の才能を開花させる、夢を叶える、未来(人生)を拓く原動力となるのと私は考えます。自分の人生を切り拓くのは他人ではなく自分自身です。

フランスパリではパラリンピックが始まりました。様々な障がいをもった選手たちが様々な競技で競い合います。出場選手たちは自分ができること、自分の可能性に挑戦することを、競技を通して私たちに伝えてくれます。まさに自分の未来(人生)は自分の手で切り拓いている人たちです。その姿、姿勢からも学べるのがたくさんあると思います。

吹中生には2学期も学校という環境を最大限に生かして自分の可能性に気付き、自ら行動していろいろなこと、新しいことにも挑戦してほしいと思います。

がんばろう、吹中生。昨日よりも今日、今日よりも明日、成長した自分になろう。